

令和7年度 東北大学大学院歯学研究科・歯学部 運営協議会 評価結果

1. 運営協議会委員5名による各項目の評価人数（0人は記載省略）

項目	評価				
	非常に優れている	やや優れている	標準的である	やや不十分である	不十分である
○運営状況	2	3			
○活動状況「教育（学部）」	1	4			
○活動状況「教育（大学院）」	1	4			
○活動状況「研究」	3	2			
○活動状況「国際連携」	5				
○活動状況「社会貢献」	1	4			
○活動状況「診療」	1	4			
総合的な評価	3	2			

2. 各評価の評価の配点（5点満点とする）

評価	非常に優れている	やや優れている	標準的である	やや不十分である	不十分である
配点	5	4	3	2	1

3. 各項目ごとの委員の平均評価点数

項目	平均評価点数 (5点満点)
○運営状況	4.4
○活動状況「教育（学部）」	4.2
○活動状況「教育（大学院）」	4.2
○活動状況「研究」	4.6
○活動状況「国際連携」	5
○活動状況「社会貢献」	4.2
○活動状況「診療」	4.2
上記項目の平均点	4.4
総合的な評価	4.6

令和7年度東北大学大学院歯学研究科・歯学部運営協議会  
委員からの評価（評価表の自由記入欄記載のコメント）

・A委員

・国際卓越研究大学のプログラムで招へいされるexcellent scholarsが研究科の教育に影響を与える道しるべをつくるべき。  
・社会貢献のし方がこれまでとは変化があるように思える。地域コミュニティの健康水準を向上させる、より直接的活動もこれまでと同じようにすべき。

・B委員

全体的に大変活発に活動されている。歯学領域内の比較では極めて高い位置にいることと思う。ただし、国際卓越研究大学の内側で異分野間で比較した場合は厳しい状況となる。研究、産学連携を持続的に高めながら、強み（国際、教育、社会貢献棟）をさらに際立たせることが重要か。

・C委員

各分野で先進的な取組により大きな成果をあげていることに敬意を表します。今後は研究者の独創性がさらに発揮される運営をお願いいたします。

・D委員

・企業との連携が一層進み、国際連携もQSランキングで高い評価を受け、留学生も高い水準を維持していることを評価したい。各国主要大学との演繹を進めてきた成果と受け止めている。  
・国際卓越研究大学として資金の要望など続いているが、卓越大としての効果、何らかの影響など可視化して示してほしい。  
・東日本大震災の行方不明者の身元特定で、宮城県警との連携で成果を上げたことを高く評価したい。行方不明者の特定は遺骨の経年劣化などで困難さを増しているが、今後も続けてほしい。

・E委員

全般に各々のテーマに対して非常に優れたシステムをもって対応されていると感じた。高齢化、健康寿命といったキーワード上も、本学歯学分野の研究並びに実用化の進展に対する社会的要請も高いと思われるので、ぜひPDCAサイクルを回して、より高みを目指していただきたい。